

これまでの調査からわかったこと

・国調費モデルの計算値と観測値の潮流楕円は、海底地形が変化に富んでいる測点では、計算結果にやや大きい傾向がみられた。

平成19年度の調査方針

・潮流観測に加え、水質、底質、底生生物の調査を実施することにより潮流と環境との関連性を把握する。

25

3. 赤潮調査

26

《目的》

有明海における赤潮発生の実態把握と迅速な情報提供

《調査期間》

平成18年 6月～平成19年 3月
1回/週以上

《調査場所》

6地点(X1～X6)

《調査内容》

採水によって、水温、比重、DIN(無機態窒素)、プランクトン沈殿量、クロロフィルaを測定

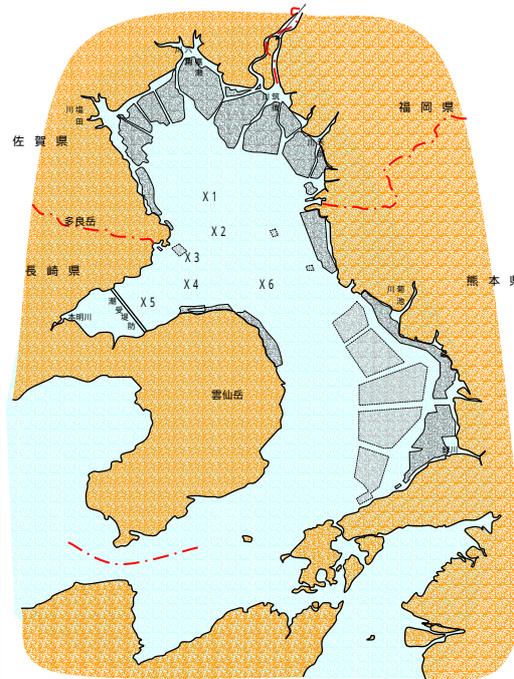
《関係機関による観測》

福岡県水産海洋技術センター有明海研究所(19地点)
佐賀県有明水産振興センター(8地点)
熊本県水産研究センター(10地点)
長崎県総合水産試験場(16地点)
西海区水産研究所(閉鎖性海域赤潮防止対策事業(5地点:4県持ち回り調査))

赤潮調査の結果は、西海区水産研究所及び4県水試と連携を図り、(社)日本水産資源保護協会の「有明海等環境情報・研究ネットワーク」のホームページにおいて情報提供

http://ay.fish-jfrca.jp/akashio/ariake/map_heimen.asp

赤潮調査点図



:西海区及び4県共同(5地点)

:佐賀県(8地点)

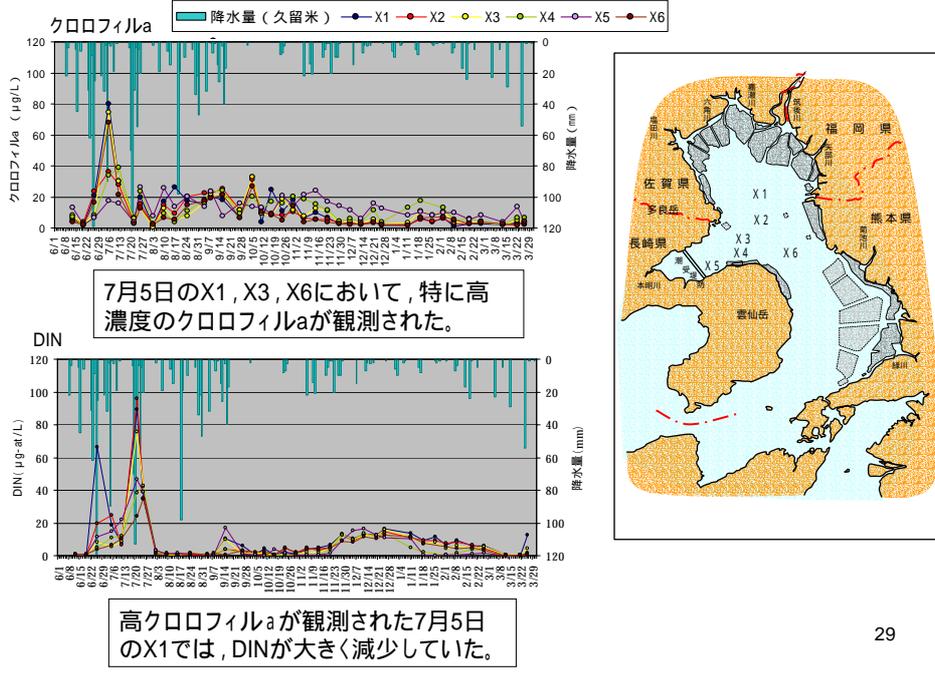
:福岡県(19地点)

:長崎県(16地点)

:熊本県(10地点)

:九州農政局調査点(6地点)

平成18年度調査結果



29

高クロロフィルa出現日の優占種と周辺赤潮の出現種

諫早湾内において7月上旬の高クロロフィルa出現時における構成プランクトンは、複数の珪藻類やクリプト藻類が競合している状況にあり、その中での優占種は *Thalassiosiraceae* 類であった。一方、同時期に佐賀県中部～西部海域、佐賀県沖合域で発生した赤潮の構成プランクトンは微細藻類、珪藻の *Skeletonema costatum* であり優先種は異なっていた。

九州農政局調査			九州漁業調整事務所がとりまとめた赤潮データ			
調査場所	調査日	構成プランクトン(上位3種)	通報番号	発生期間	発生海域	構成プランクトン
諫早湾 (X4)	H18.7.4～8	Nitzschia spp. 30～538 cells/mL Chaetoceros spp. 26～386 cells/mL Cryptophyceae 10～312 cells/mL	SA-04	6/29～7/2	佐賀県中部～西部	微細藻類 11,200cells/mL
	H18.7.11	Thalassiosiraceae 5,340 cells/mL クリプト藻類 1,825 cells/mL <i>Skeletonema costatum</i> 350 cells/mL	SA-05	7/4～11	佐賀県沖合域	<i>Skeletonema costatum</i> 20,400cells/mL



30

これまでの調査からわかったこと

- ・7月上旬に諫早湾で検出された高濃度クロロフィルの構成プランクトンは複数のプランクトンが競合した状態にあり、その優先種は佐賀県沖で発生した赤潮の構成プランクトンとは、異なっていた。
- ・平成18年度の調査では、諫早湾内で大規模な赤潮は発生しなかった

平成19年度の調査方針

- ・引き続き、赤潮発生の実態把握と迅速な情報提供を行うとともに、赤潮の発生海域や拡大の実態を明らかにする。

31

4. 底質環境調査

32